

授業科目名： 家庭科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉村佐知子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 1. 小学校学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。 1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容、全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 家庭科の学習評価の考え方を理解している。 4) 家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 2. 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 5) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 6) 家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。 7) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 8) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。			
授業の概要 1. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴について理解させる。 2. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を理解させ、目標達成のための指導方法について考えさせる。 3. 学習評価を含めた学習指導案を作成し、それを具現化した模擬授業を実施し、振り返ることで授業改善に取り組ませる。			
授業計画(1)～(7)通信(8)～(15)面接 第1回：家庭科の目標及び主な内容 (1) 学習指導要領をもとに、家庭科の目標及び内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解できるようにする。 第2回：A 家族・家庭生活の指導 (2) 家族や地域の人々との触れ合いや団らんに関する題材についての指導内容や留意点を考えることができる。 第3回：B 衣食住の生活の指導 (3) 食領域「和食だし」に関する題材についての指導内容や留意点、1時間分の授業構成を考えることができる。 第4回：C 消費生活・環境 (4) 消費生活に関する題材について、思考ツールを活用した学習指導案を提示し、授業計画を立案する。 第5回：教材研究の仕方 (5) 授業設計に関して基本的な課程と留意点に分かり、題材の目標設定や目標に応じた指導計画や評価計画を立てることができる。 第6回：学習指導案の書き方 (6) 児童観・題材観・指導観を理解し、自分の考えを表現できる。本時の指導に関して具体的な支援の仕方を書くことができる。 第7回：模擬授業の学習指導案作り (7) 模擬授業に向け題材を考え、教材研究を通して学習指導案を作り、計画的に準備をすることができる。 第8回：模擬授業1 (8) 模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導法や指導材、情報機器の活用を習得できる。 第9回：模擬授業2 (9) 模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導法や指導材、情報機器の活用を習得できる。 第10回：調理の指導 (10) 日本の伝統食である米飯及びみそ汁とそれに合うおかずの調理実習を通し、指導法や留意点について考える。 第11回：学習評価の仕方 (11) 日本の伝統食である米飯及びみそ汁とそれに合うおかずの調理実習後、安全・衛生・消費・環境等の面から授業評価を行い、指導法や留意点について再考する。 第12回：手縫いの学習指導材を活用した模擬授業の学習指導案作り (12) 個人で手縫いの学習指導材や情報機器を活用した指導案を作成する。 第13回：学習指導材の製作 (13) 内容Bの生活を豊かにするための布を用いた手縫いの学習指導材を制作することを通して、指導方法や留意点を考えることができる。 第14回：学習指導材を活用した模擬授業 (14) 手縫いの学習指導材や情報機器を活用した模擬授業、討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用を習得する。 第15回：まとめ・これからの家庭科教育 (15) 家庭科の学習指導で大切なこと(安全・消費・環境・言語活動・食育など)を振り返り、これからの家庭科指導のあり方を討議する。			
テキスト 「小学校の教師をめざす人のための「小学校家庭科」指導法テキスト2018 古田豊子編 (開隆堂)			
参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領解説 家庭科」(文部科学省)			
学生に対する評価 通信：レポート 面接(講義・模擬授業・調理実習・製作実習)60% , レポート40%			